

1

①

火山

②

白

③

赤土

④

つきひ

⑤

あ

げる

2

1

冬

2

冬ごもり

3

とり

4

いえ

5

木の
み
や
た
ね

6

ゆき

3

①

ウ

②

オ

③

エ

④

ア

⑤

イ

⑥

カ

4

1

水草

2

エ

3

①

ウ

②

イ

③

ウ

④

ア

配点

1

各2点×5＝10点

2～4

各5点×18＝90点

＜計＞100点

① すべてやさしいはずである。ていねいに書くこと。

②

1 ここより前には「冬がくる前」「冬眠」とあるし、このあとにも「冬がくる」とある。

2 すぐ前に「もうすぐ冬がやってくる」とある。冬にそなえていえをつくるのだから、冬眠をするため、つまり冬ごもりをするためのいえである。

3 前のほうに「森にいたとりたちはもう、南のほうへとびさっていました」と書かれている。

4 すぐあとで「このあなの中に、たべものをうんとためて、あとから入り口を小石やこけでふさいだら、最高の冬ごもりのいえになる」と書かれている。

5 前のほうには「たべものにこまらないように、たねもたくさんあつめよう」とあったが、「たね」だけでは六字にならない。これよりあとに「せっせと木のみやたねをあつめました」とある。

6 すぐあとの文では「ぼく」といっているので、タルーンのことだとわかる。おわりは「くるがいい！」までになる。

③

① びっくりするようすをあらわす。

② ニュースやうわさをしるのがはやいことである。

③ じまんできるようなようすをあらわす。

④ 「ほうほう」といういみになる。

⑤ あるきつかれたことである。

⑥ おこってしまうことである。

④

1 文章ぜんたいが、なにについて書かれているかをかんがえる。文章中にくりかえしてでてくることがたいせつである。

2 水は「いきていくのにひつよう」とあるので、アは水草にとってよいじょうけんである。イは「それに」としてアとならべているので、これもよいじょうけんといえる。ウは「つよい風」がないと、ふきたおされないので、これもよいじょうけんになる。エは、空気が「こきゅうにひつよう」なので、よいじょうけんとはいえない。

3 ①は「地中にのばして」とむすびつくもの。②は「からだをささえる」から、すぐにわかるだろう。③も「地中に」とある。④は、すぐ前の文の「葉を水面上に出している」をせつめいしたものである。